

講義科目名称： 建築インターンシップⅡ

科目コード： 52290

英文科目名称： Internship of Architectural course Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年通年集中	1・2	6	選択
担当教員			
建築学科全教員			
添付ファイル			
講義概要	建築インターンシップⅠの単位取得済学生が、さらにインターンシップ経験を積み成果を得る科目である。建築の専門性を有する学生が、受入機関（建築設計事務所、ハウスメーカー等）における実践的な環境の中で、建築士の指導（設備の場合は建築設備士の場合がある）のもと、建築設計・工事監理の実務体験を行うことにより、修了後の実社会での即応力を養うことを目的とする。インターンシップⅠの経験を踏まえ、Ⅰより高度な設計や監理技術を学ぶ。 インターンシップⅡでは、連続又は分割して6週間(実時間180時間)以上の間、予め受け入れ契約を交わした事業所において建築設計・施工監理等の実務に従事し、複数回(6回程度)の作業報告書・レポート提出を事業所の指導担当建築士（インターンシップ先企業の担当者）並びに大学院担当教員（本学インターンシップ科目の担当者）に提出する。		
授業計画	インターンシップⅡ 企業実習 受入先においてあらかじめ設定されたスケジュールに従い、建築士の指導（設備の場合は建築設備士の場合がある）のもと、建築設計・工事監理の実務に携わる。実習終了後、指導教員に実習終了の報告を行い、報告書を提出する		
授業形態	受入先においてあらかじめ設定されたスケジュールに従い、建築士の指導（設備の場合は建築設備士の場合がある）のもと、建築設計・工事監理の実務に携わる。		
達成目標	建築設計・工事監理の実務体験を通して、受け入れ先より評価を受け、実務経験年数としてカウントされる。インターンシップにおいて実社会の現状を把握する。 インターンシップⅠで得た知識を踏まえ、より高度な実務経験を積み、それを理解する。 建築設計、監理の実務の一部を指導担当建築士（インターンシップ先企業の担当者）のもと、共同で担当することにより、建築設計、監理の応用を学び、身につける。		
評価方法・フィードバック	実習終了後、指導教員（大学院における研究指導教員）に実習終了の報告を行い、大学院担当教員（本学インターンシップ科目の担当者）に報告書を提出する。事務所の指導担当建築士（インターンシップ先企業の担当者）による実務訓練評価も得て、インターンシップ報告会を開催し、大学院担当教員（本学インターンシップ科目の担当者）が総合評価を行う。		
評価基準	のべ180時間以上の受入機関における実習を行って、上記評価方法により評価を得た学生について単位を認定する。		
教科書・参考書	特になし。ただし、受け入れ先機関での指示に従う。		
履修条件	インターンシップⅠを履修済であること。実務経験取得を目指す学生は、修士1年の当初に、履修計画書（自由書式）に必要事項（学籍番号、氏名、研究室、実務経験取得希望年数、インターンシップ先の候補、インターンシップ時期、修士論文と修士設計研究のテーマ）をまとめた上で、指導教員（大学院における研究指導教員）を通じて研究科建築コース教員会議へ提出すること。		
履修上の注意	一級建築士試験の大学院における実務経験取得を目指す学生は、指導教員（大学院における研究指導教員）および大学院担当教員（本学インターンシップ科目の担当者）とも十分相談した上で履修計画を検討すること。		
準備学習と課題の内容	受け入れ機関などと十分事前打ち合わせを行うこと。		
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）			